

第 11 回生産マイスター検定 ベーシック級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石山 真実

■ 第 11 回検定の結果を振り返る

ベーシック級の結果を振り返りますと、「コスト」の得点率が 59.0%と低い傾向が見られます。他の単位は比較的に高得点であり、その中でも「役割」は 75.6%とかなり高い得点率になっていました。このことから、現場でのものづくりをきちんと行っていくための役割や、ものづくりの基礎知識は十分理解されていると思われます。

それに対して、利益の確保、製品競争力向上として重要な要件であるコストに関しては、まだまだ学習不足であることが心配されます。

コストに関する計算問題では、「端材ロス・取り代ロス・不良ロスの計算」、「材料使用の歩留まり率の計算」は正答率が高いのですが、例年と同様に「編成ロスの計算」については理解ができていない方が多いようです。編成ロスとは、作業分担の良し悪しを評価するものですので、ライン作業職場だけでなく、複数の作業者が分担して生産している職場には必要な考え方になります。また、「基本機能の作業・補助機能の作業」、「人の作業ロスの 4 種類」は人系作業職場の改善の基本的な見方、考え方ですし、「設備の停止ロス」は設備系作業職場の基本的な見方、考え方になりますが、今回は正答率が低かったようです。基本的なものですので、是非、もう一度テキストを見返していただけたらと思います。

■現場の活動から

若手研修の講師をさせていただいている B 社の話ですが、参加者の方々と話をしてみますと、多くの方が「これまでも色々と研修をしているけど、ほとんど職場のなかでは活かされていない」と言われていました。大変もったいないことです。

そこで私の研修では、「若手でも、明日からできること」をいくつか体感を交えて勉強してもらいました。その一つに、「明日から、きびきび仕事をする事」を学んでもらいました。きびきびのイメージをつかんでもらうために、100mを1分で歩いてもらいました。これは、電車に乗り遅れそうなので少し急ぎ目に歩く感じです。100mを1分で何回か歩いてもらった後に、それと同じくらいの努力度で、3m離れたところに置いてあるペットボトルを取ってきて、ふたを開け、水をコップに注ぎふたを閉め、3m離れたところに戻してもらいました。「これがきびきびした仕事ぶり」として体感してもらい、これだけで生産性は1.3倍くらい上がることを理解してもらえました。「これなら明日からできる」大いに納得してもらえた演習でした。きびきび

(一社) 人材開発協会

とは、あわてて作業をやることではありません。自身のできる最高の努力度で仕事をするということ
ことです。

皆さんも「明日からできること」がありませんか。

以上